

2018 12 月一般質問 Q&A 全貌

(前住議員) はい。傍聴席にお越しの皆さん、インターネット中継で御視聴の皆さんこんにちは。9番前住孝行です。

11月22日に総務産業常任委員会視察で島根県の邑南町に防災についてと観光についてということで役場と食の学校に伺いました。午前中は防災についての取り組みに学び、自主防災組織づくり、防災情報の提供の方法、備品の扱いなどについてかなり綿密なところまで考えられていて見習うことが多くあったと感じております。この後、山本委員長がしっかりと質問されると思いますので、私も期待しております。その中で集落担当職員の話が出てきておりました。これは話を聞いたところ、若桜町を参考にされてつくったということをおっしゃっていただきました。こうして相互の研修での深まりを進めていかななくてはならないなど改めて感じた研修となりました。

午後は観光についてということで邑南町職員である寺本英仁農林振興課調整監の話を聞かせていただきました。観光というより、町づくり、地方創生の取り組みについてという色が濃く、その研修を受けての今回の質問となります。

それでは通告しております順に質問させていただきます。

地方創生の取り組みについて

地方創生が叫ばれ4年目の事業の最中となっております。若桜こども園の全面無償化を初めとするさまざまな事業が進んでおります。若桜こども園の保護者としても、運動会や発表会など、にぎやかになってきていて、子育て世代が増えている感じを受けております。そこで、5年前の計画段階に立ち返りまして1つ目の質問になります。

若桜町総合戦略概要版の13ページに、「⑧PDCAサイクル」という項目があり、若桜町地方創生検討委員会等の意見を踏まえつつ、若桜町地方創生総合戦略本部を中心として効果検証を行い、との記述がありますが、平成27年度から今日まで、年に何回検討委員会・本部会議をなされたのかお尋ねします。

(川上議長) 答弁を求めます。矢部町長。

(矢部町長) はい。若桜町地方創生検討委員会等の平成27年度から今日までの開催回数についてのお尋ねでございますが、若桜町地方創生検討委員会につきましては、若桜町人口ビジョン、若桜町総合戦略を策定した平成27年度以降毎年開催しており、今日までに計10回開催しております。本部会議につきましては役場幹部で構成されており、正式な本部会議としては平成27年度以降計6回開催しております。幹部会の場等での略式協議や書面等での意見集約等も合わせれば、これよりも回数は多くなっております。また、議会におきましても、今年度はまだ未開催となっておりますが、平成27年、28年、29年度に年1回ずつ地方創生特別委員会を開いていただいております。その中で御協議のほうをしていただいております。

(川上議長) 前住孝行議員。

(前住議員) はい。検討委員会のほうは計10回、本部会議が6回ということで、それ以外にもあるということでありますけど、その回数ですけど、その回数についても、時間のこともあると思うんですけど、その回数や時間等、町長の思いとしては多いと思われませんか、少ないと思われませんか、お尋ねします。

(川上議長) 答弁を求めます。矢部町長。

(矢部町長) はい。この回数についてでございますけど、できる限り町民の皆さんの声を聞きたい、委員の皆さんの声を聞きたいという形で開かせていただいております。結果こうなっておるということで、それは例えば毎月1回でも、ということにはなかなかなりづらいということもございまして、できる限り開かせていただきながら町民の皆さんの意見聞いてまいりたいと思いますので、御理解をよろしくお願いいたします。

(川上議長) 前住孝行議員。

(前住議員) はい。答弁の中でもやっぱりちょっと少ないっていうイメージの趣旨を受け取っております。それで、私自身もやっぱりこの地方創生は本当に大事だなというふうに思っておりましたので、しっかりね、議論をする機会をしっかり持っていただけたらなというふうに思っておりますし、ちょっと次の、次じゃないな、まだ踏み込みますけど、それぞれの会議の、出席はしてないので内容というか、状況なんですけど、検討委員会のほう、聞いた話です。数値を報告してそれで全体での意見を聞いたというようなことを聞いておりますけど、そういった方法でちゃんと意見が集約できるのかということが私自身気になっておるんですけど、その方法について適正であったかどうか、お尋ねします。

(川上議長) 答弁を求めます。矢部町長。

(矢部町長) はい。まず、作成時期の開催ではなく、先ほど議員さんが言われたのは、検証の内容での検討委員会の開催だと思います。今年度行いましたときにもやはりKPI設定に向けてどういう事業を取り組んだのかという報告をさせていただいております。それで、当然KPIに達成しない事業、達成したのもございます。そういうものをまず説明させていただいて、どういうふうに改正していったらいいのかという意見をぜひお聞かせ願いたいというふうな形で開催はしたんですけど、やはりどうしても時間に制約がございまして、委員の数もかなりの方がございます。それで、皆さんが一言ずつでも言っていただきたいという思いではございますが、なかなかそこまでは至っていないのが現状でございまして、ただ、皆さんいろんな意見をお持ちだと思いますので、そういうことが聞けるような開催方法というのやはり考えていく必要があるなと思っております。

(川上議長) 前住孝行議員。

(前住議員) はい。私は同感なのでそれ以上は聞きません。確かに、本当にせっかくたくさんの方のね、委員の方に来ていただいているんですけども、その時間の問題とかね、いうことでいうのじゃ、ちょっと寂しい部分もありますので、ほんと、今後そのグループ討議とか、またいろんな方法があると思いますので、そうやって会を進めていただけたらなというふうに思います。

では、2番の質問になります、先ほどもちょっと入っているかもしれませんが。先日10月29日にその検討委員会がなされたようです。それで、29年度決算を終えての地方創生中間年の結果が出ています。分野別で具体的施策を89項目に分けて行っていますが、どのように分析をされているのか、町長の所見を伺います。

(川上議長) 答弁を求めます。矢部町長。

(矢部町長) はい。地方創生事業について中間年の進捗結果を受けてどのように分析されているのか所見を伺うとの御質問でございますが、若桜町総合戦略では平成27年度から31年度までの5カ年の計画として、「住む人にやさしい町づくり」、「地域資源を活かした町づくり」、「豊かな緑の中で育む仕事づくり」という3つの基本目標のもと、11項目に分類して数値目標である重要業績評価指数、いわゆるKPIを設け、89の具体的施策を設定して関連する複数の事業を進めております。御質問の平成29年度事業実績を反映した中間結果ですが、基本目標別に見ますと、「住む人にやさしい町づくり」では目標を上回っているものが3項目、順調に推移しているものが2項目、伸び悩みを見せているものが6項目、「地域資源を生かした町づくり」では目標を上回っているものが2項目、順調に推移しているものが1項目、伸び悩みを見せているものが2項目、「豊かな緑の中で育む仕事づくり」では目標を上回っているものが1項目、順調に推移しているものが2項目、伸び悩んでいるものが4項目となっています。

平成28年度と比較すると伸びているものと後退しているものが共に10項目ずつ、横ばいに推移しているものが3項目となっております。現時点で伸び悩みを見せている項目が半数を占める結果が出ておりますが、もとも高い目標を設定しているということもございますし、事業効果が数値としてあらわれるのはこれからというものも複数あると認識しております。ただ、単年度数値を評価指数として設定している項目もありますが、単年度前のみならず、複数年の経過も見ていくことが重要であるというふうに考えております。いずれにしましても、目標のKPIの達成のいかんに関わらず、若干持ち直しはしておりますが、依然として本町の人口減少に歯止めがかかっていない現状から事業面でさらなる工夫、改善が必要であるというふうに認識しております。

(川上議長) 前任孝行議員。

(前任議員) はい。その結果を踏まえて、本当にそのPDCAサイクルで、その目標修正というのをされている項目もあります。KPIですね。それで、そういった修正されているのはどの会議でされて、どのような理由でされているのかというのを教えていただけたらと思うんですが。

(川上議長) 答弁を求めます。矢部町長。

(矢部町長) はい。先日開催いたしました検討委員会の中で、KPI等々の報告をさせていただきました。その中で、やはり達成が難しいもの、または改正が必要なもの、また、達成したものについてはその中でKPIの見直しというのを提案させていただいております。御承諾のほうはいただいております。

ころでございます。

(川上議長) 前住孝行議員。

(前住議員) はい。これは本部会議で大体修正されたものを検討委員会で承認してもらおうという形になるんですかね。これは課の方で決められてになるのかどうか、はい、教えてください。

(川上議長) 答弁を求めます。矢部町長。

(矢部町長) はい。今回つきましては課の方で検討していただいて、それを提案させていただきます。

(川上議長) 前住孝行議員。

(前住議員) はい。担当課ですので、そこで変えてもよろしいでしょうけど、やっぱり本部会議とかでもやっぱりしっかり話をさせていただいて、系統的にやっていただけたらなというふうに思います。はい。このK P Iのそれぞれの項目でここはいいだ、悪いだってあるんですけど、そこを言うつもりはなくて、私が一番気にしているのは概要版にあります14ページの、先ほど町長が言われました、「1、住む人にやさしい町づくり」ということの1つの基本目標及び数値目標に掲げているところが僕は気になっているところがあります。それで、「出生数が5年間で64名」、それで「I J Uターン者数が70名」という目標が掲げ、これも5年間で70名という目標のほうが私も気になっているんですけど、数字がわかれば数字を教えてくださいと思うんですけど、わからなければ出生数やI J Uターン者数の目標と現状と比べられて、どのように考えられておりますか、お尋ねします。

(川上議長) 答弁を求めます。矢部町長。

(矢部町長) はい。大変申しわけないですけど、今、出生数、I J Uターン数ちょっと正確な数字は、まだ今、ちょっとわかりませんので、後でまた御報告させていただきます。

先ほど議員が言われましたとおり、この出生数といいますか、0歳から14歳の数というのをK P Iに設定しておりますが、これが本当に伸び悩んでおる状況でございます、目標値が227人という目標値を31年度に上げておるんですけども、平成29年度の達成率というか、マイナス17人になっております。これを何とか上げていくということが本当に必要だなと思っております、合わせまして、「住む人にやさしい町づくり」の中に、22歳から44歳の未婚率というものもございます。これもやはり大きく減少というか、達成率に届かないような状況でございます。やはりここら辺はどうしても関連してくることでございますので、こういうところにやはり力を入れて取り組んでいくということが本当に必要だなと思っております、これ、現在は1市6町で一緒にやっているんですけども、やはり取り組み方が、どの町も同じなんですけど、上がっていかない現状でございます。だから、内容をもう一度精査しながら、本当に取り組んでいく必要があるなと思っております。

(川上議長) 前住孝行議員。

(前住議員) はい。確かにその数は去年の、今の15歳か、15歳の人数が30名ぐらいいたので、そこにやっぱり追いつくまでなかなか確かに難しいと思います

ので、そういった少ない結果になるのは致し方ないかなと思ったりしております。そういつて町長の方はそういうふうに意識してくださっておるんならありがたいかなというふうに思いますので、引き続き考えていただけたらなというふうに思います。

それで、2つ目のほうの「地域資源を生かした町づくり」のほうにも目標値が掲げられておりまして、町内観光客入込客数 30 万人ということ、また、宿内の観光客入込客数 10 万人という目標、これは 31 年の段階でどうだということの目標にはなっているんですけど、次に関係してくるかもしれませんので、次にいきます。そこも踏まえての3番になると思います。

本年度も移住体験ツアーの実施、若桜鉄道イベント関係事業、氷ノ山関係事業等々、さまざまな事業を進められていると思います。それで、現状から最終年度への目標に対してその課題とその対策についてどのようにお考えか、お尋ねします。

(川上議長) 答弁を求めます。矢部町長。

(矢部町長) はい。現状から最終年度の目標に対して課題と対策について、どのようにお考えかお尋ねしますとの御質問でございますが、御質問の趣旨は地方創生における若桜町総合戦略のK P I進捗状況を鑑み、計画最終年度である平成 31 年度においてK P I数値目標を達成するための課題と対策についてというふうな解釈で答弁させていただきたいと思っております。現状の課題の対策としましては、先ほど答弁させていただきましたK P Iの進捗状況について、伸び悩んでいるK P Iが関係する分野の事業はもちろん、例えば目標を上回り順調に推移していても、さらなる事業改善が図れないか、各所管課においても検討を加えながら事業改善を図っていかねばならないと考えております。

御質問にあります移住体験ツアーにつきましては、4年間行ってまいりましたので、見直しを行い、新たな方法を検討しているところでございます。やはりバスを出す、年2回出すというやり方ではどうしても参加者が伸び悩むというようなことがございます。もっと自分の来たいときに来られるような方法はないかと、そういうふうな受け入れができないかということは今、検討しているところでございます。

若桜鉄道イベントにつきましては、やはり経済効果や効率性を勘案して、こちらでもやはり検討する必要がある。今年の3月に観光列車「昭和」がやってまいりました。そのことによりまして、観光客は確かにふえました。ところが今度、また3月に今度は八頭号がやってまいります。今度は2つ目の観光列車ということで、最初の「昭和」と比較しますと、集客力はどれくらいあるのかというのが大変疑問なところがございますので、それをできるだけ多くの人に来ていただけるような企画ものというのを考えていく必要があると思っております。

また、氷ノ山関係事業につきましては現在開いております若者プロジェクトや業者組合など、また、活性化協議会など、多くの意見をやはり聞きながら、本当にどういうことが必要なのか、特にオールシーズン型、冬場を除いた春から秋にかけての取り組みはどういうものが大切なのかという

ものを、ぜひ検討をして、できるだけ早急にそういう取り組みをやってまいりたいというふうに思っているところでございます。

また、今年度からの試みといたしまして、当初予算前に各課からの意見、要望等を聞く機会を設けておりますので、課題解決等も含めまして予算編成方針の確認も今やっているというところでございます。できるだけ、とにかく氷ノ山についても前向きにいろんな事業が取り組めるような施策を考えてまいりたいと思っておるところでございます。

(川上議長) 前任孝行議員。

(前任議員) はい。移住体験ツアーの実施ということで見直しもされているというふうに思いますけど、私自身はこの移住体験ツアーからその移住につながっているということを聞いておりますので、とても検討、より良いものに検討をしていただいとるというのは良いかなというふうに思っておりますし、また、若鉄イベント関係についても、もう春のイベントについても企画をされているというような説明も受けておりますので、本当に早め早めにしっかりした企画で取り組んでいただけたらいいかなというふうに思っております。

氷ノ山についても先ほど町長オールシーズンでということをおっしゃいました。このたびの若桜氷ノ山インフォメーションセンターで竣工式がありましたけど、本当に冬場はもちろんですけど、本当にそれ以外のグリーンシーズンでもさまざまな用途で使えるんじゃないかなというふうに見させていただいておりますので、また、本当、関係者の皆様方とよりいい施設というか、活用できる施設にさせていただけたらなというふうに思っております。

では、4番目の最後の質問になりますが、来年度が最終年度になります。重要業績評価指数（KPI）の目標達成のためにどのように計画に結び付けるのか。本来、初代地方創生大臣の石破茂氏は「あれもこれもの総花ではなく、これはという政策を計画してほしい」と言われておりました。それで、具体的な計画は当初予算で出されると思いますが、基本的な考え方をお尋ねします。

(川上議長) 答弁求めます。矢部町長。

(矢部町長) はい。KPI目標達成のための基本的な考え方についてのお尋ねでございますが、先ほども述べましたとおり、来年度の当初予算編成につきましては各課、前に直接協議をする機会を設け、現状や課題の整理から予算要求の基本方針についての確認作業をさせていただきました。必要に応じてやはり根本の計画を見直すことも大切ではありますが、総合戦略の最終年度である31年度に現計画を変更することは現時点では考えておりません。新しい計画を立てる上で、やはりそういう部分については検討させていただきたいと思っておるところでございます。ただ、PDCAサイクルに基づきまして事業面での改善という部分については、当然やっていきたいと考えております。基本的な方針といたしまして、やはりこの人口減少対策というのが大きな題目であることは確かでございます。その中でどういう計

画を進めていくのかということでございます。当然、次期計画を策定するに当たりましては、街並み整備ですとか、駅周辺整備、重要伝統的建造物群の保存地区などを通じた賑わいづくりという、街並みの、宿の街並みの賑わいづくり、また、町民の皆さんが望んでおられます公共交通の再構築、あと、米、えごまなどの農業の振興、それからまた、林業についても新しい活性化事業によりましての林業振興、それから今、住んでおられます高齢者の皆さんが年間を通して、生き甲斐を持って生きていける、暮らしていける、そういう仕掛けづくりであったり、施設の整備、それから先ほども申しましたオールシーズン楽しめる氷ノ山の創出、今もやっておりますけれども、やはり子育て支援というものも拡充が必要だと思います。そういうものを柱にして策定していきたいというふうに思っておるところでございます。

(川上議長) 前任孝行議員。

(前任議員) はい。総花になりそうなことになってしまうんです、どうしてもね、やっぱり。このたびの総務産業常任委員会での視察で邑南町のほうに行かせていただいたということを冒頭に話したんですけども、そこはやっぱり2本立てということでしたが、結局は広がっていくんですけどね。それで、その2本立てというのは「子育てということ」と、「A級グルメのまちづくり」ということで進められておられました。それで、本当に熱い方、職員さんが失敗も一杯あったということをおられましたけど、進められてきて今があるというようなことだそうです。それで、二番煎じか三番煎じかわかりませんが、A級グルメの町づくりっていうところは若桜町も本当にいいものがたくさんありますので、それこそ肉に特化した取り組みもありじゃないかなというふうに思います。それで、そういった1つの軸があればそこに地元の野菜、また夏イチゴ、米、お酒などっていうのが組み合わさっていけば、先ほどのこともカバーできるのかなというふうに思います。

それで、昨年、一昨年ぐらいから辻調理師専門学校との連携ということもされておりますので、そこら辺でまた深まりができたかなというふうに私自身は思うんですけど、先ほど町長の言われたところにはちょっと入ってないかもしれませんが、私のこの所見に対して、町長何か思いがありましたらお願いします。

(川上議長) 答弁を求めます。矢部町長。

(矢部町長) はい。先ほど私が答弁した内容には確かに入っておりませんが、やらないという意味ではなくて、当然特産品の振興というのは当然やっていく必要が、観光客が来れば物は売れる又は物を売りに行く、ただ、農産物もそうですし、ジビエもそうですし、今、若い人が若桜にたくさん住んでいただきましていろんな物を作っていただいております。味噌をつくったりする方も出て来られました。当然その方たちは味噌をつくり、みずから売りに行くということを今、していただいております。特に若い方っていうのはやはり来る方を待つというようなやり方ではなくて、みずから売りに行くということを本当によくやっておられます。それで、先ほどありまし

た肉に、ジビエにいたしましてもやはりこれも長年にかけて積み上げたものがやっと花開いたと思っておりますし、同じように吉川豚についてもすぐに売れたものでもございません。やはり長い年数をかけて地道に販売されて来られたものがやっと形になってきたというようなこともございます。

ただ、この商工会のほうも、今、一生懸命特産品開発、力を入れてやっていただいておりますので先ほどの御提案もありました、肉も含めまして若桜町の特産品というものをもっと全面的に表に出していき、東京、大阪で売っていきたいという気持ちは持っておりますので、ぜひそちらの辺で御協力よろしく願いいたします。

(川上議長) 前住孝行議員。

(前住議員) はい。通告ではもう1項目させていただいていたんですけど、議長に認められませんでしたので、この項目だけになりました。指摘されたことを加えまして次回に行いたいというふうに思っております。

初代石破大臣に続いて鳥取県選出国會議員の舞立昇治内閣府大臣政務官が就任され、やっぱり特に鳥取県の地方創生を気にかけてくださっております。それで、その国会議員の方をお願いっていうのはしていくべきだというふうに思っております。ですが、そのお願いした分しっかりと結果を出して自慢をしてもらえるような取り組みにしていかななくてはなりません。

先を見越した、見通した矢部町長の最終年の意気込みがこもった予算組を期待いたしまして質問を終わります。